

はこだてしおおぶねじえいせき
函館市大船J遺跡 (登載番号 B-01-325)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市大船町498-4, 502-2, 506-1・4, 507-1・5, 511-3

調査主体：函館市教育委員会（調査担当者 吉田 力, 野村祐一）

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団（調査担当者 萩野幸男）

調査期間：令和5年6月1日～令和5年9月27日

調査面積：1,667m² (III層), 1,667m² (V層)

調査の概要

遺跡は、函館市南茅部地域の大船川から北西へ約700mの佐藤川左岸海岸段丘上に位置する。調査区は、標高約59～67mの東緩斜面である。調査区の西側は、背後の丘陵へやや急傾斜で続いている。東側は、市道大船高台1号線の法面によって一部が切られ、緩斜面が150mほど続いた後、急傾斜をなし更に100mほどで海岸に至る。調査区南側の佐藤川右岸には大船E遺跡が位置し、令和4年度に1,630m², 令和5年度に130m²の調査を実施している。また、大船中村川を挟み大船G遺跡（令和元年度964m², 令和4年度2,890m²調査）、木田川を挟み大船I遺跡（令和元年度4,881m²調査）や大船H遺跡（平成30年度3,950m², 令和2年328m²調査）が位置している。大船I・H遺跡の東側は史跡大船遺跡が広がり、同じ段丘面上に密集して遺跡が分布している。

調査は、駒ヶ岳d火山灰（1640年降灰）・白頭山-苦小牧火山灰（947年降灰）下層のIII層（縄文時代前期以降-続縄文時代の遺物包含層）と、駒ヶ岳f・g火山灰（約6,300～6,500年前降灰）下層のV層（縄文時代早期の遺物包含層）について実施している。なお、調査前の調査区現況は杉林で、近現代の畑として利用された痕跡もみられ、一部で畝跡を確認している。また、畑跡からは埋設された甕（近代の石見焼か？）が1個体出土している。

遺構と遺物

III層調査 III層の遺構は、土坑4基、柱穴状土坑4基、落し穴1基、集石2基、焼土6ヵ所、剥片集中1ヵ所を検出した。遺構は、調査区の北西側に集中してみられ、落し穴を除く大半は続縄文時代の構築と考えられる。遺物は、縄文時代中期、晚期、続縄文時代の土器を確認した。続縄文時代の恵山式土器が主体である。石器類は、石鏸、石鋸、スクレイパー、石核、石斧、敲石などが出土し、総数約600点である。

V層調査 遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代早期前葉の川汲式（日計式）に相当する尖底土器（胴下半部）が出土した。結束によらない羽状縄文が施されている。石器類は、スクレイパー、石斧、敲石、凹石、擦石、磨石、石錘、砥石などが出土し、総計約70点である。



図2 調査区の位置と周辺の地形



遺跡全景（南上空から）



調査区全景（III層調査開始前 写真上は南西）



土坑 P-1 土層断面（南西から）



落し穴 TP-1 完掘（東から）



焼土 F S - 2 焼土断面 (南東から)



III層土器出土状況 (縄文中期後葉 大安在B式)



IIIa 層土器出土状況 (続縄文時代 惠山式)



III層石鈸出土状況



V層調査風景 (北上空から)



V層土器出土状況 (北東から)



V層土器出土状況 (縄文早期前葉 川汲式)



V層石斧出土状況